

第 111 回 (2022 年 6 月度) 監査技術ゼミ 結果報告

運営委員長 菊谷 純
(文責：松下 洋二)

1. 開催日時 2022 年 6 月 8 日(水) 午後 2 時 00 分～午後 5 時 00 分
2. 開催方法・場所 ZOOM を利用したオンライン会議方式
講師はオフィスより解説
司会(委員長)は自宅より進行
委員は自宅または職場にて参加およびオンライン会議のサポート
3. テーマ 安全文化を創る
4. 講師 (株)社会安全研究所技術顧問 立教大学名誉教授 芳賀 繁氏
5. 出席者 48 名
6. 配布資料 (事前に参加予定者にメールで送付)
2022. 6. 08 監査懇話会第 111 回監査技術ゼミ「安全文化を創る」株式会社社会安全研究所 立教大学名誉教授 芳賀繁
7. 議事次第
 - 1) 運営委員長より開会の挨拶
菊谷運営委員長よりオンライン参加者のZOOM接続状況を確認したのち、開会挨拶と本日のテーマ紹介を行い、講師の芳賀繁氏を紹介された。
なお出席者の内、旧独立委員会セミナーも含めて当ゼミへの初参加者は以下の通り。
ペルノックス(株) 監査役 佐藤 大 氏
 - 2) 講義
午後 2 時 5 分より、講師が自己紹介を行った後、資料に従い講義が行われた。途中 3 時 18 分から 12 分間の休憩時間を挟み、3 時 30 分から再び資料に沿って講義が行われ、4 時 00 分に講義が終了した。
 - 3) 質疑応答および意見交換等
講義を終了したのち、7 分間をチャット記入時間にあて、4 時 7 分から出席会員会友と質疑応答ならびに意見交換が活発に行われた。
質疑応答および意見交換の要旨は以下の通り。
 - ・ 労働安全衛生法と安全文化の関係。安衛法遵守は適法性監査の枠組みで監査するが、安全文化はどのように監査していくべきか。
 - ・ 大きな事故を起こした会社の従事者(当該事業に専門的に従事する技術者等)が、社会的非難を受けることで、むしろ被害者意識をもってしまうことにどう対処すべきか。
 - ・ 重大結果をもたらした事故・災害等でも、ヒューマンエラー不処罰でよいのか(モラルハザードを誘引しないか)
 - ・ 安全確保と企業の不正予防には共通点があると思うが、文化醸成の方法として何があるか。
 - ・ 知床遊覧船事故は規制当局の監査が不十分ではないか
 - ・ Just Culture は、安全に限らず、あらゆることに適用されるべきではないか。
 - ・ 安全確保にはコストがかかることを、利用者や社会全体が理解すべきではないか

4) 委員長より閉会の挨拶

質疑応答の後、菊谷運営委員長が講師に感謝の意を表されるとともに、参加者に対しアンケートへの協力要請を行う（後日メールで発信）とともに、次回の監査技術ゼミは7月15日(火)に開催予定の旨案内した後、午後5時4分に閉会となった。

以上